
happy+./*

智慧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

happy+・/*

【Nコード】

N6267D

【作者名】

智慧

【あらすじ】

お金持ちのお嬢様とお坊ちゃんまの恋のお話です。

「はやく逢いたい・・・」
私が願っていたのは、それだけ。
毎日同じことを言ってきた。4年も前ら・・・

私の名前は、ヒイラギ ナギサ柊渚。

光琳学園の高等部1年。世界で1位を誇る柊財閥の娘。

私は、明るい性格。

暗い性格は、大嫌いだ。

私は、この16年間恋というものをしたことがない。というよりも
できない。それは、婚約者が決まっているから。

だけど私は、好きでもない人とは結婚なんてする気はまったくない。
私の婚約者の名前は、ナルミレン鳴海廉。世界3位の鳴海財閥の御曹司。

廉も光琳学園高等部の1年。

幼なじみでもある。

廉は、明るい性格。そして恋愛に関してはごく一途。かなりの焼
きもち妬き。

廉との婚約が決まったのは高校1年の時。

ある日お母様に呼ばれた。

「渚お嬢様、奥様がお呼びです。」

と執事の今居が言った。

そのとき一瞬いやな予感がした。

「また、あの話しかなあ・・・」

「失礼します。お嬢様をおつれしました。」

「ありがとう今居。さあ、入りなさい渚。」

とお母様は、優しく言った。

「それで、お母様話してなんですか？」

「渚、あなた今廉君と仲がいいのかしら？」

とお母様は、突然廉との仲のことを聞いてきた。私は

「どうして？」と聞いた。

そしたらお母様がこう言った。

「昨日ね廉君のお父様とお母様と話してね、渚と廉君の婚約が決まったの。」

私は、突然の婚約にびっくりした。その相手が廉だからだ。いままでは、知らない人がばかりの婚約が決まっていたけど私はそれを断り続けてきた。もちろん今日も断るつもり。

だけど・・・今断ったら廉との関係が上手くいなくなるかもしれない。でも好きでもない人とは、結婚なんてできない。

どうしたらいいかわかんない・・・

そのときお母様が

「嫌なら断ってもいいのよ。」

といってきた。

私は、

「考えらして。」

といった。そして、次の日私は、幼なじみの南咲と浅倉新に相談した。咲は、宝石店の娘。新は、世界のワインを作ってる会社の息子。二人とも私と廉の幼なじみ。性格は、とっても良い。二人は、ちゃんと相談にのってくれた。

そしたら咲が

「渚ってまだ好きな人いないの？」

「うん。」

いなくて当然だって私は、恋をしたことがないから。そしたら咲が

「なら今から頑張って廉を好きになれば？」

「えええええ！！そんなの無理だつて。」

そんなことは、できない。だって恋というものを知らないから。そのとき今までだまっていた新が口をひらいた。

「それもいいんじゃない。そうしたら廉となぎ・んんー」

いきなり咲が新の口をおさえた。

「新あんた今何を言おうとしたの！もし全部言つてたら廉に殺されてたわよ！」

「ごめんごめんつい口がすべるとこだった。」私は、何のことか、さっぱりわかんなかった。そこに廉がやってきた。

「よう。何の話してたの？」と廉が聞いてきた。《何の話をしてたの？》そんな事いえるはずがない。

私は、その日1日中考えていた。だけど答えは、でなかった。次の日、私は、決めた。

廉と婚約をする事を。決まったきっかけは、昨日の咲の言葉。

頑張つて好きになれば？そのこの言葉がきっかけだった。

廉なら好きになれるかもしれない。そう思った私は、すぐにお母様に伝えた。

そのときお母様すぐうれしそうだった。

これで良かったんだよね。すぐに咲と新に報告をした。そしたら咲と新が二人そろつてこう言った。

『もう知ってるよ。』と。

え！？何で？そうか廉が先に言つたんだ。

「もう知つてたんだ。」

『うん。』

でも、なんか二人とも落ち着いた雰囲気だな・・・まあ、いいや。

それから私は廉と付き合うことになり毎日のようにデートをしたりした。だけど、好きには、なれなかった。

ある日、廉が急に

「渚って俺のこと好き？」

って聞いてきた。

突然だからびっくりした。私は思わず

「好き。」と答えてしまった。

このとき、初めて廉に嘘をついてしまった。

その日から廉は、毎日のように

「好きだよ。」や

「愛してる。」などを言ってきた。

それに対して私も

「大好きだよ。」や

「うちも愛してるよ。」などを言った。私は、『嘘つきだ。』と思った。

好きでもない人に好きや愛してるなどを言っているのだから。

私は、最低な彼女だ・・・

ある日、廉がキスをしてきた。私は、びっくりした。最初は、ほっぺに次は唇にそして、下を入れられた。私は、初めてだった。

でも、なんかすごいときどきした（ノノノノノノ）

初めてだったから？ いや、違う。初めてだったら普通は、嫌がるよね？

そのことを咲に相談したら

「それは、廉を好きになっただってことだよ。」

「えっ！ そうなの！？」

「そうだよ。だってときどき、したんでしょ？」

「うん・・・」

そう、私は幼なじみの廉に『恋』をしてしまった。初めての『恋』だ。

『初恋』だった。

私は、なぜか知らないケド、とてもうれしかった。

多分それは、初恋の相手が廉だからだ。

私は、今まで廉のことは、友達として大好きだから、1番の友達だと思っていたからだ。

「初恋の相手が廉で安心した。」

と私は、思った。

その日から私は、毎日のように楽しい日々をおくっていた。

ただある日、私が新と楽しく話してるところを偶然廉は見てしまった。

その日廉は、話しもしてくれなかった。

その日の夜、廉の家に行った。

そしたら、廉が強引に自分の部屋に私を連れて行く。なんか怒っている雰囲気だ。なしたんだろ？何があったか聞いてみた。「廉？なんかあったの？」

そしたら廉が怒ったようにこう言った。

「なんかあったの？じゃねーよ。お前昨日、誰と話してた？」

え？まさか新と話してたことに怒ってるの？もしかして……『ヤキモチ？』私は

「新と話してた。」

つて言ったら廉が

「いいか。お前は俺の女。他の奴と話すな。分かったか？」

「え？何で？新とぐらいいいじゃん。」

私は、逆ギレをしてしまった。

「は？新とぐらいいいじゃん？お前俺の気持ちもわかんないでよくそんな事言えるな。」

「は？俺の気持ち？そんなの分かるわけないじゃん。じゃあ、廉は、うちの気持ちわかるの？わかんないくせにそういうこと言わないで。」

と私は、言い廉の部屋からでいった。

その日から廉から連絡がなくなった。

なんか・・・寂しい。

こんな気持ち初めてだ。

廉がいないとこんな寂しいなんて思いもしなかった。

ある日、廉に呼ばれた。『今日の放課後屋上に来い。』と。
放課後
なんだろう？別れ話？かな。とりあえず行ってみよ。

屋上に来た。廉がいた。

「来たよ。」

なに言われんだろ。

「よう。そのこの間は、ごめん。その、言いすぎちゃって。ほんとにごめん。」

「ううん。うちも悪いから。うちこそごめんね。」

お互いに謝りあった。

仲直りは、できた。

そして、また廉からキスをしてきた今度は、深く長かった。キスが終わった。そしたら廉がこう言った。

「俺、来月になったらニューヨークに行くんだ。なんか、社会の勉強をしに行かなきゃいけなくなって。それで今日ここに呼んだんだ。」

「私は、聞いた。」

「それって何年くらい？」

そしたら廉が

「多分4年くらいだと思う。」

「それじゃ、4年も廉に会えないの？嫌だよ、そんなの。」
涙が止まらない。

「ごめん。でも、俺ぜってーお前に合う男になって帰ってくる。だから、待ってる。」

「ほんとに？嘘ついたら、もう二度と会わないから、話さないからね！」

そして、廉がニューヨークに行く日。

本当は、見送りになんて来なくなかった。だけど約束したから。絶対私に合う男になつて帰ってくるって。

「廉。頑張ってきてね！約束、破らないでね。」

「おう！破んねーよ！」

二人は、キスをした。

「それじゃあな！」

「うん！じゃあね。」

4年後

「はやく逢いたい・・・」

そして、今日廉が帰ってくる。
はやく逢いたい。

そして、空港。

もう少しで廉に逢える。そのとき。

「渚！！」

廉の声だ！

廉だ！

「れーん！逢いたかったよぉー」

「俺もすっげー逢いたかった！」

「お帰り。廉。」

「ただいま。渚。」

そして、二人は結婚をした。

私は、今とても幸せです。
とてもhappyです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6267d/>

happy+./*

2010年10月28日02時46分発行